

今回は、青年海外協力隊の隊員として活動してこられたお二人を紹介します。

海を越えて見えてきたこと

青年海外協力隊体験記



橋浦 直子さん
(岩本)

派遣国: タイ
職種: 日本語教師
活動内容: プレー県(北部)の公立中高一貫学校
日本語コースの高校生に日本語を教える
滞在期間: 滞在期間: 2年

遅刻、授業中の飲食、ごみのポイ捨て...日本語よりも、そんなことを注意するところから始まりました。自由で甘えん坊なタイの学生達。それでいてとても素直で優しく、毎日学校で楽しそうにしているのを見ると、タイの子どもたちは幸せなのかな、と思いました。日本語の上達に関しては、正直、ばっちりは言えません。でも、“外国人の先生”と毎日顔を合わせ、片言の日本語とタイ語で話をするなかで、異文化からやってきた私を“理解しようとする”こと、そして、“理解してもらおうとする”ことを彼らは学んでくれたのでは、と思っています。“せんせい”と笑顔で呼んでくれる彼らに助けられた2年間でした。



宮本 優子さん
(岩常)

派遣国: バングラデシュ
職種: 小学校教諭
活動内容: 現地の小学校教員に授業の作り方を講義や指導
滞在期間: 1年9カ月

バングラデシュで学んだことのひとつに「『違いより同じ』を見つける」ということがあります。外国で暮らすと「違い」を見つけることは容易いことです。服装、宗教観、食べ物など全てが違って見えます。けれども、バングラデシュの人々は「同じ」を見つけるのが上手なのです。「日本もバングラデシュもお米を食べるということが一緒だね」というように。

バングラデシュではのんびりした社会全体と国民性の影響もあるのですが、人と人との距離がとても近かったように思います。「同じ」を見つけることで人との距離がぐっと縮まるということを経験しました。バングラデシュでの活動でも、日本・バングラデシュ教育の数少ない「同じ」を見つけることで現地の教師へのアプローチが容易になるという場面がたくさんありました。



日本でも積極的に「同じ」を見つけ、まわりの人との心の距離を縮めていきたいです。

この経験を通して、橋浦さんは「教員免許をとって先生になりたい。」、4月から岩美北小学校に勤務している宮本さんは「岩美町の子ども達に感じたことを発信していきたい。」と抱負を語っていました。海外での経験を通して、教育のまちいわみにまた新しい風を吹き込んでくれると期待しています。